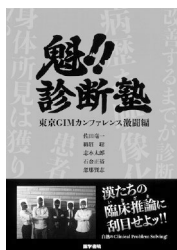


書評

[評者]

徳田安春

群星沖縄臨床研修センター・
臨床研修センター長



魁!! 診断塾

東京 GIM カンファレンス激闘編

佐田 竜一，綿貫 聡，志水 太郎，
石金 正裕，忽那 賢志 著

● A5 頁 272 2017年9月

定価：本体 3,500 円＋税

[ISBN978-4-260-03194-3]医学書院刊

一読して、これは現代医学系出版物の明治維新だなと思った。実際、明治維新は少人数から始まった。年齢層も若かった。若き情熱と実行力で世の中を変えたのだ。この本の著者も、メンバーの年齢層は30～40歳代であり、一般社会的には中年層であるが、医師の世界では比較的若年層だ。しかも情熱と実行力のみならず、ユーモア力と知識、そしてアピール力も素晴らしい。

内容は症例検討会の実況中継が主体で、それぞれ解説も付けている。厳選されたケースに対する深いディスカッションが展開されているので、とても勉強になる。しかも簡単に読めて勉強になるのは、漫画のノリで書かれているからだ。それに、鑑別診断のアプローチやネモニクスなど、実践力が身につくように工夫されている。

元となった勉強会は「東京 GIM カンファレンス」と呼ばれている。「京都 GIM カンファレンス」という関西で有名な勉強会の関東版との位置付けでスタートしたが、友情と格闘で育てた仲間内のポジティブ・フェ

イスの濃密さという点では京都を超えている。しかも症例について語り合うのは、病院を超えた親しい仲間内である。飲み会のようなノリが漂ってきているのは、多分勉強会の後の飲み会がメインとなっているからなのであろう。病院内での心理的ストレスの大きい若手総合内科医にとっては、こういった病院を超えた勉強会での仲間が必要だと思われる。

本の話に戻る。臨床推論のベーシックと高度な応用スキルが漫画を読むように楽しみながら身につくように工夫されている。そのために、漫画のセリフのようなダジャレや、必ずしも品が良いとはいえない発言をあえて挿入したのだろう。

しかし著者らは確信犯(?)でもある。なぜなら、彼らの写真は皆、顔にモノクロの仮面のようなものを被っているからだ。発言の質を自覚しているからであろう。このシリーズの次回作を期待するのは私だけではないと思われるが、今回はぜひ、著者たちの最近の真顔を拝見したいところだ。